

ひがしいず 議会だより

2024 No.314

1月号

本年もよろしくお願いたします
— 議員一同 —



ミセスこらっぺい
ドライフルーツで目指す全国展開
12ページにて紹介

ふるさと納税好調	2~3
一般質問	4~7
各常任委員会視察報告	10~11
かがやくまちのひと	12

議会HP



一般会計補正予算等を可決

第4回
定例会

ふるさと納税好調 大幅増

定例会の
あらまし

令和5年第4回定例会を12月6日・7日の2日間など計15件について審議した結果、全て原案どおり

の日程で開催し、条例改正や補正予算ほか、議員発議、意見書案可決しました。

Pickup ① ふるさと納税寄附金の大幅増 2億円



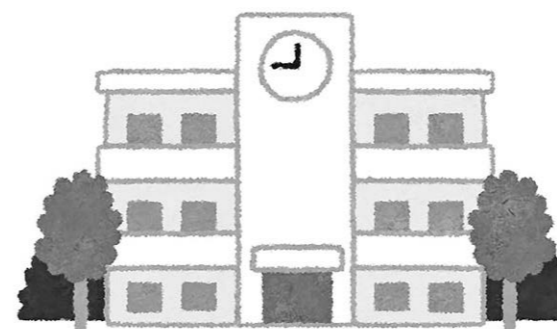
当初予算4億円から大幅増が見込まれるため、2億円を増額します。

Pickup ③ 水道分岐配管工事 90万円

Pickup ④ 住宅リフォーム補助金 300万円

旧大川小学校校舎1階部分の水道管の工事です。

当初予算1,000万円に不足が見込まれるため増額します。



Pickup ② ワーケーション環境整備業務委託 220万円



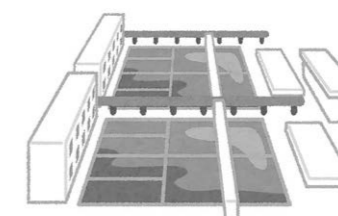
稲取駅の待合室部分を改修し、ワーケーション施設を開設することで、稲取温泉の顔として地域の活性化を図ります。

Pickup ⑤ 道路維持管理 550万円

Pickup ⑥ 水道施設修繕 500万円



当初予算2,950万円に不足が見込まれ、今後の道路修繕に対応するため増額します。



白田浄水場2号ポンプの故障による修繕費です。

Q 骨髄バンクドナー登録推進の考えは

A 積極的に情報提供していきたい



栗原 京子 議員



Q 白血病などの治療には骨髄移植が有効だが、患者とドナーの白血球の型が一致しなければならず、その確率は親兄弟で4分の1、それ以外では数百〜数万人に一人となっている。またドナー登録はたった2mlの採血だけで済むが周知されていない。更なる周知と推進が必要だが町の取り組みは。

A 町の情報配信メール、ホームページ掲載や関連サイトへのリンク付けなどで積極的に情報提供していきたい。
Q 白血球の型が一致しドナーが骨髄提供に至った場合の町の支援は。
A 骨髄提供のための入院や通院一日につき、上限7日としてドナーに2万円、勤務先の事業所に1万円を支給する。
Q 骨髄移植を受けた後、それまでに受けた予防接種の抗体が消失し、再接種が必要となるが全額自己負担となってしまう。町として費用助成の考えは。
A 全国で5.2%の自治体しか助成制度を設けていないが、子どもの健康面や家庭の経済面の負担を考慮し、早急に対応が必要と考える。



1歳のとき骨髄バンクのドナーから移植を受けて元気になった梨花ちゃん

Q 現在の財政調整基金の残高は

A 16億2,667万円ある



須佐 衛 議員



Q 基金を財源に白田川橋への対応が図れないか。
A 基金があるからこの事業ではなく、それが本当に必要なかどうかの検討が重要。今年度は橋台の調査と方針検討のための業務を委託している状況であり、その結果、架設が必要であるとすれば、財源の措置については改めて考えていく。
Q 光ファイバーケーブルの移設期間を考えれば国道の上側に歩道を設置した方が早く安く済むのではないか。



光ファイバーケーブルの移設に1年以上必要

Q 事業の重要性を住民の意見も聴きながら決める手順が必要で、現在はケーブルの撤去期間も活かして検討を進めているところ。
Q 町の源泉を活用し温泉施設建設に投資できないか。
A どの位利用されるか、採算が合うのか、もしくは経費をどの程度投入すればよいのか、しっかりと調査することが重要で、その上での検討となる。
Q 旧稲取幼稚園の敷地内に町が権利を有する源泉があるようだが。
A 具体的な検討に至っておらず、町民の意見を広く聴く必要がある。

第4回定例会 一般質問



一般質問
議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をだし、所信の表明をもとめること。

楠山 節雄 議員

- 漁業振興について
- 旧稲取幼稚園の活用について
- 新年度の予算編成について

栗原 京子 議員

- 骨髄バンクドナー登録推進と
- フアミリーサポートセンター事業について

須佐 衛 議員

- 財政調整基金の活用について
- 三地域居住者への対応について
- 町長の政治姿勢について

定居 利子 議員

- 町営稲取上野墓園について

山田 豪彦 議員

- 道路管理について
- 持続可能なまちづくりについて
- 鳥獣害問題について

山田 直志 議員

- 不登校の児童・生徒への対応について
- 物価高騰に対する支援について
- まちづくりについて
- 来年度予算編成について

鈴木 伸和 議員

- ごみ集積所の問題と改善について

東伊豆町議会 YouTubeチャンネル

Q 黒潮大蛇行による漁業への影響は

A 長期化により将来的にも不安を覚える



楠山 節雄 議員



減少の一途をたどる特産品の稲取キンメ

Q 漁業が観光振興や観光の資質を高めている。支援の考えは。
A 水産庁の「海業」という施策があり、水産、観光、飲食業など、海に關係する地域資源を活かす産業を意味する。各業種の連携により相乗効果を狙い、漁村に賑わいを創出していく考え方であり、そのような取り組みも重要と考えている。
Q 今後の漁業振興を考える上で、創る漁業を模索するために空き校舎等の活用は。
A 現場の意見も踏まえつつ、しっかりと事実確認の上で判断し、必要があれば県への働きかけも含め対応していきたい。
Q 治山工事による漁業への影響がある。関係者との話し合いが必要では。
A 現場の意見も踏まえつつ、しっかりと事実確認の上で判断し、必要があれば県への働きかけも含め対応していきたい。

そのほかの質問

- Q 旧稲取幼稚園での子ども食堂の開催の考えは
- Q 年齢・性別問わず集える場所という考え方の中で検討は
- Q 新年度予算編成の基本的な考えは
- A 目標達成のために機動的・縦断的に取り組む
- Q 跡地利用にはいろいろな可能性はある。旧大川小について現在詳細な検討はしていないが、比較的の水が豊かと聞いており、それらの有効利用で付加価値の高い魚種の養殖ができるなら可能性はあるかもしれない。タイミングを見計らい検討していきたい。
- Q 治山工事による漁業への影響がある。関係者との話し合いが必要では。
- A 現場の意見も踏まえつつ、しっかりと事実確認の上で判断し、必要があれば県への働きかけも含め対応していきたい。

そのほかの質問

- Q 二地域居住者へのプレミアム商品券の販売は
- Q 住民との金額のバランスを検討する必要がある
- Q 特定地域づくり事業協同組合の本格的検討は
- Q 視察など検討を進めているが、ハードルが高いともいえる
- Q 町長の掲げる「幼小中高一貫制教育」の方向性は
- A 県のブランドデザインに描かれるかがカギだ



山田 直志 議員



Q 不登校の子どもへの対応は

A 多種多様な要因がある中、学校が全体で共有し対応

Q 保護者への対応は。電話や訪問を行い、来校時は教職員全体で対応する。

A 主に担任が対応しており、養護教諭等も対応している。在宅学習やオンライン授業も試みている。

Q 不登校の児童・生徒はどの程度いるのか。

A 児童が2名と生徒が8名いる。加えて准不登校が2名、不登校相当が1名となっており、登校はしているが授業に参加できていない状況である。

Q 学校での対応は。

A 必要性は感じているが、課題もあり検討していきたい。



不登校は誰にでも起こること

Q 文科省の「不登校は問題行動ではない。だれにも起こること」という視点を広めるべきではないか。

A 昔のように学校に来ることがゴールではないという事は伝えている。保護者の会も必要と考えるが。

Q これから、どのようなことが課題と考えているか。

A 不登校の要因は多種多様で、個々にきめ細かな対応をするには学校だけでは限界がある。カウンセラーや外部機関の方々と連携していかねばならないと考えている。



鈴木 伸和 議員



Q ごみ集積所の課題解決は

A 町の情報配信メール・LINE・HPでルールの周知に力を注ぐ

Q 町内のごみ集積所は何か所あり、うち民地を借りている所を把握しているか。

A 合計で508か所。維持管理は町内会等に依頼しているため、町は民有地の把握はしていない。

Q ごみの分別方法や出し方の周知はどのような方法で実施しているか。

A 瓶や段ボール、ペットボトルについての注意喚起を情報配信メールやLINEで2、3か月に一度、年末には資源ごみと年末年始のごみ収集について全戸配布、瓶の出し方に特化したものを回覧で3か月に一度、町HPでも周知している。



ごみステーション

Q 現在不適切な搬出に赤ラベルを貼り内容を知らせることを実施しており、これを継続していくことでルールを浸透させたい。また、町内会未加入者や外国人居住者の方に向け、アパート管理者や勤務先への周知協力の通知に力を入れたい。あわせて多言語対応のポスターも作成したい。

Q 今以上の分別を考える必要があるか。

A 他の自治体と比べてまだ分別種類が少なく、リサイクル率も10%以下であり、今までの分別を必要とする。現在、一般廃棄物処理基本計画を策定中であり、その中で分別の種類を増やしていきたい。

Q 旧墓地にトイレ・ベンチの設置は

A 現地を確認して考えたい



誰もが利用しやすい環境の整備を

Q 稲取上野墓園は、何区画あるか。

A 新墓地329区画、旧墓地1510区画である。

Q 墓じまいにより返還された空き墓地は何区画あるか。また、新たな申し込みはあるか。

A 返還された墓地は、令和3年から令和5年10月末まで28区画あった。また、現在貸し出し可能な空き墓地は70区画あり、新たな使用の申し込みは、令和3年から令和5年10月末まで8区画あった。

Q 墓地の空き状況を広報誌への掲載は、担当課と相談したい。

A 町ホームページ、情報配信メール、LINEでの広報を検討している。

Q 旧墓地内の通路の状況が良い状態でない箇所がある。また、距離もあついで、高齢者が訪れやすいようにしてはどうか。

A 考えていきたい。

Q 旧墓地の空き区画にベンチ、トイレ（携帯用、簡易含む）を設置する考えは。また、新墓地の上階段の所に水道設備の設置はどうか。

A まずは新墓地のトイレを使用していただき、携帯用・簡易トイレについては検討していきたい。ベンチ、水道設備については、現地を確認して考えたい。



定居 利子 議員



Q 町道横ヶ坂油久保線への標識の設置は

A 規制をかける事項は公安委員会の許可が必要



みんなの使いやすいきれいな道路

Q 県道稲取停車場線の稲取駅上ガード下周辺他の草刈り等の管理を強く要望してほしいがどうか。

A 賀茂地域局、賀茂農林事務所、下田土木事務所との円卓会議で箇所も示して要望していく。

Q 町道横ヶ坂油久保線の草刈りや標識、案内看板の設置を含めた、きめ細やかな維持管理が必要と考えるか。

A 草刈りについては来年度から委託管理を考えた。

Q 通行量、歩行者の少ない町道でボランティアによる草刈り等の維持管理をする考えは。

A マンパワーや財源が不足する中、自助・共助・公助のもと、町民全体でやっていく事は大事だと思う。



山田 豪彦 議員

そのほかの質問

Q 細野高原の維持管理を含めた総合的な利活用について考えは

A 最適な状態を保ち次世代に繋げていくよう課題や活用方法を考える協議会を立ち上げる予定

移動支援事業について

－文教厚生常任委員会－

65歳以上の高齢者を対象に、昨年からはまった移動支援事業が、町民の期待に応えるように行われているかを調査しました。調査に当たり、健康づくり課から事業の説明を受け、参考人として運転ボランティアを行っている3名の方から意見を伺いました。

事業の概要

- ①事業の名称 「支え合う東伊豆」
- ②利用時間 8:30～17:00
土・日・祝日、年末年始休み
- ③対象者 65歳以上の高齢者（要介護者を除く）
- ④利用目的 買い物、健康診断、健康教室、サロンなど
- ⑤支援の依頼 利用の申込みは1週間以上前に行う。
確定次第、連絡あり
- ⑥事業経費 2,345千円（令和5年12月1日現在）
- ⑦事業委託先 町社会福祉協議会



事業の実績
令和4年度（10月から令和5年3月）の実績
利用登録者 61人
運転ボランティア 9人登録
利用状況 69人（延べ103人）

委員会の意見



- (1) 町民への周知
事業が利用していただきたい町民に知られてはいない。きめ細かな対話による説明が必要不可欠である。
- (2) 運転ボランティアの確保
各区や別荘地等、利用登録者が住む地域に必要な運転ボランティアがいることが望ましい。
- (3) 独自車両の確保と環境の整備を
自家用車を使用し「狭い所で擦った。」という事例があった。車両保険などの補償や独自車両の確保など、自己負担軽減のための支援策を検討されたい。
- (4) 管理体制
利用登録者からの依頼照会と対応できる運転ボランティアからの受諾確認をLINEで行っている。
オペレーションのあり方・体制の見直しを図ることが必要である。
- (5) 利用事業チケット（料金）の改善
利用料金は、利用登録者と運転ボランティアとの間で、利用券の受け渡しによって行われている。
日付の記入、利用時間の確認、利用券の枚数確認及び受領確認などが求められ、双方に負担がかかっているため、煩雑な手続きの改善を検討されたい。



東伊豆町議会HP
「町政・議会」>「委員会の活動」>
「所管事務調査」>「移動支援事業について」

第4回定例会の議案と各議員の賛否

○ 賛成 × 反対
※議長は採決に加わらない

議案名	採決結果	山田豪彦	鈴木伸和	楠山節雄	※ 笠井政明	稲葉義仁	栗原京子	西塚孝男	須佐 衛	村木 脩	内山慎一	定居利子	山田直志
補 正 予 算													
議案第62号 令和5年度一般会計補正予算（第5号）	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第63号 令和5年度国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第64号 令和5年度介護保険特別会計補正予算（第2号）	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第65号 令和5年度水道事業会計補正予算（第3号）	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
条 例 改 正													
議案第55号 犯罪被害者等支援条例の制定について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第56号 職員の給与に関する条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第57号 特別職の職員で常勤の者の給料等に関する条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第58号 国民健康保険税条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第59号 印鑑条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第60号 消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第61号 静岡県市町総合事務組合理約の一部変更について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
諮 問													
諮問第4号 人権擁護委員候補者の推薦について	可決（11：0）	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
発 議 ・ 意 見 書 案													
発議第3号 町議会議員の請負の状況の公表に関する条例の制定について	可決（11：0）	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
発議第4号 町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	可決（11：0）	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
意見書案第1号 台湾のCPTPPへの加入に向けた支援を求める意見書について	可決（10：1）	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	×

委員の変更	変更前	変更後
総務経済常任委員会 委員長	内山 慎一	定居 利子
総務経済常任委員会 副委員長	定居 利子	鈴木 伸和
議会運営委員会 委員	内山 慎一	定居 利子
議会広報編集委員会 委員	内山 慎一	山田 直志

意見書については東伊豆町ホームページにて掲載
<https://www.town.higashiizu.shizuoka.jp/>
ホーム>町政・議会>陳情・要望>意見書・決議書



意見書はこちらから

水道事業とお出かけ支援事業を視察

財政負担の少ないデマンド型交通事業を視察



【和歌山県那智勝浦町の水道事業】

人口と観光客の減少の中で、水道事業を展開している和歌山県那智勝浦町を視察した。

給水人口：14,238人

水 源：表流水

施設能力：14,200m³/日

浄水場施設：3箇所

管路延長：172km

職員体制：9人

視察後に委員会で話し合った意見

・管理体制

施設管理については、浄水場が新しいこともあり、警備会社や職員OBに管理を委託していた。管理の在り方は絶えず見直しをする必要がある。

・一般会計出資債（※）の活用

那智勝浦町では、令和2年度に県のアドバイスを受け、一般会計出資債を活用して事業を行っていた。当町でも静岡県等に相談し、経営診断や指導を受けるべきである。

※一般会計出資債とは

一般会計で水道事業等の公営企業会計に出資することを目的に起債される。

・水道料金以外の財源獲得の調査・研究を

当町の水道事業は、老朽化により今後膨大な施設整備費が必要となってくる。補助金の獲得、繰入金の見直し等、町民・事業者の負担を軽減するために財源の確保を課題とされた。

【三重県紀北町のお出かけ支援事業】

感想・意見

町民にマッチした制度の設計を

紀北町の事業は、実証実験の結果を踏まえ、運転手3人及びオペレーター2人を会計年度任用職員とすることにより、安定した運行体制を整えていた。

事業実施できた背景には、国庫補助金(地域内フィルダー系統確保維持費国庫補助金)及び一般財源のうち、特別交付税で措置される集落支援員を活用しており、財源もよく研究し、事業を実施していた。



東伊豆町議会HP

「町政・議会」>「委員会の活動」>「議員派遣結果報告」>「結果報告書 文教厚生常任委員会」



【山形県川西町 デマンド型交通事業】

町内のタクシー会社に委託した予約制の町民乗り合いタクシー（相乗りも可）であり、自宅等の戸口から目的地の戸口までを送迎する。

委託先：町内タクシー会社3社

利用会員：1,530人（うち9割が高齢者）

利用方法：予約センターへ電話予約（当日予約も可）

利用料金：片道ひとり500円（小学生以上）

運行状況：町内全域を毎日9便運行

利用時間：午前7時30分～午後5時

財政負担の現状

運行していた町民バス事業経費の負担が大きく、効率的な交通対策として導入。（導入前の平成15年度実績は約1,700万円で、一般会計からの持ち出しは約1,400万円）

平成18年度の本格導入後の実績は約1,170万円で、一般会計からの持ち出しは約354万円となり、利用料金の徴収や国庫補助金の活用により、町民バス運行時から約538万円の大幅な財政負担の軽減に成功した。

感想

平成18年度から本格導入しており、早い段階から地域交通の課題に取り組まれていた。川西町のデマンド型乗合交通は、タクシー会社の既存システムを活用することで、導入コストを抑え、一般会計からの持ち出しを軽減できた例であった。

また、町民の意見を事業に反映するため、平成17年度の実証実験時から毎年アンケート調査を行っており、より使いやすい環境を作っていると感じた。

【山形県長井市 スマートシティ長井の実現に向けた取り組みについて】

感想・意見

デジタル専門員人材派遣制度を活用し「点」ではなく「面」でスマートシティ自治体を目指していた。例えば、SIMを活用した子どもの見守り、河川水位監視及びデジタル機器を活用した有害鳥獣対策は、それぞれ3つのデータを組み合わせることにより、通学路の安全確保、河川補修、鳥獣害対策、それぞれの事業の優先順位を子どもたちが通る場所から行っていくなど、データから導き効率的に行っていた。

また、スマートストアはまだまだ売り上げ面等に課題はあるが、今後課題を解決しながら将来の人口減少、労働人口減少に対応していける取り組みだと感じた。



東伊豆町議会HP

「町政・議会」>「委員会の活動」>「議員派遣結果報告」>「結果報告書 総務経済常任委員会」

かがやく まちのひと

Vol.16

農家の奥さん達が、規格外の特産品を使ったドライフルーツをプロデュースしています。今回は作業場に伺って皆さんのお話を聞いてきました。

※商品はこらっしえで販売しています。



代表の山田さとみさん



作業風景

「ミセスこらっしえはどんな集まりなんですか」
農家のお嫁さんの集まりです。令和元年4月にオープンした直売所こらっしえがきっかけになり、農産物で新たな目玉商品ができないかと試行錯誤を重ね、当時農協の朝市に出荷していた8人のメンバーで一念発起しドライフルーツを商品化しました。

「どんな思いで活動されてきたんですか」
最初は乾燥時間やカットの大きさ、厚さなど

全てが失敗続きでした。それから半年以上をかけ、令和2年12月にこらっしえで販売を開始しました。苗の植え付け、肥料、消毒等の栽培から収穫や加工、袋詰めまで全て手作りで。商品には絶対の自信があります。皆で楽しく和気あいあいがモットーです。

「今後の展望は」
果物だけでなく野菜も加工して、味噌汁やスープの具材に商品の幅を広げ、ふるさと納税の返礼品として、さらに知名度



出来上がったドライフルーツ



袋詰めして商品に

を上げていきたいと思っています。町民の皆さんも是非食べてみてください。



ドライベジタブルもできました

編集後記

町議会議員の職に就いて早いもので半年が経過した。まずは皆さんの声を町に届けることを心がけてきた。この「議会だより」も議員の重要な仕事のひとつで、取材や写真撮影、原稿の作成から編集、校正までの全てを自ら行っている。皆さんに是非読んでいただきたい、あるいは閲覧板から取っていただきたい、そんな思いを胸に今回は「ミセスこらっしえ」の皆さんの所へ取材に伺ってきた。明るい笑顔と夢を語る熱意に、私たちも元気をいただいた。皆で明るく元気な町をつくっていききたい。
(山田豪)

議会広報編集委員会

委員長	栗原京子
副委員長	稲葉義仁
委員	山田豪彦
委員	鈴木伸和
委員	笠井政明
委員	山田直志